

熱心なファンが詰め掛けたアンダーグラフの
チャリティーコンサート = 第一体育館



アンダーグラフ 迫力のステージ

金沢学院大学、金沢学院短期大学の学祭「清鐘祭 Anniversary60th」は十月十五日、十六日にキャンパス内で行われました。人気上昇中のグループ、アンダーグラフのチャリティーコンサート、人間国宝魚住為楽氏による短期大学公開講座、短大プレゼンテーション実務士発表会をはじめ、舞台での演技披露や作品展示でにぎわいました。また、学生が出店した飲食模擬店も人気を集めてにぎわい、雨模様を吹き飛ばしました。

昨年リリースしたメジャーデビューシングル「ツバサ」のヒットで人気上昇中のアンダーグラフのコンサートには、開場前から四百人を超える列ができ、最終的に入場者九百人を数える盛況でした。

開演とともに、観客席は総立ちとなり、メンバーがストリートライブで鍛えた演奏と力強い歌声でオリジナル曲を次々と披露し、入場者を魅了しました。

コンサートの益金十一万四千四百四十円と、教職員、学生から寄贈された物品を販売したチャリティーバザーの益金五万四千七百四十五円は、北國愛のほほえみ基金に寄付されます。



雨の中で行われた開会式
＝ 3号館前広場

楽しい学校づくり強調
東高の中高連絡会
金沢学院東高校の中高連絡会は九月三十日から石川県内五会場で開催行われました。

金沢・河北地区連絡会「写真左」では石田毅士郎校長が徹底した生活指導で、名前だけでなく学校の自身を変えよう、楽しい学校をつくらうと努力している」と強調しました。

清鐘祭 来た見た学んだ楽しんだ

銅鑼づくりの真髓語る

短大公開講座 人間国宝の魚住氏講演



物づくりの本質を語る
魚住氏＝4号館講堂

金沢学院短期大学の公開講座は十月十五日、清鐘祭に合わせて行われました。砂張銅鑼制作の人間国宝である三代魚住為楽氏（金沢市在住）が、「物づくりは、これでいいということがない。これでもかこれでもかと思いつつ、作り続けている」と、銅鑼を通じた物づくりの真髓を語りました。

祖父で人間国宝の初代為楽氏から厳しく仕込まれたという魚住氏は、力仕事でありながら繊細さも要求される銅鑼について「とにかく失敗を繰り返して今日まで来た」と振り返りました。

会場には、中村記念美術館から借り受けた初代為楽氏制作の銅鑼「和鳴」と三代為楽氏の銅鑼が並び、石田寛人学長や短大学生、平木孝志短大教授らが試し打ちをして、それぞれの音色を堪能しました。



プレゼンテーション実務士の発表会＝講堂

プレゼンテーション 技能学習の成果披露

短大生活デザイン学科
金沢学院短期大学生活デザイン学科のプレゼンテーション実務士発表会は十月十五日、4号館講堂で行われました。

同実務士資格を取得した二年生五人が、パワーポイントなどを駆使しながら、「各国の教育システムと留学について」「就職活動のすすめ」などをテーマに、授業の成果を披露しました。



山下教授が秋成の研究で文学博士に
金沢学院大学文学部の山下久夫教授は九月十六日付で、「雨月物語」で知られる上田秋成についての研究論文で文学博士の学位を立命館大から授与されました。



発行・広報室